偏見と差別について

「普通」とは一体、何なのでしょう。人は一人一人違うはずなのに、社会が作った「普通」という価値観に苦しむ人達がいます。そして、「人はみな違って良い」ということを認めることができない人もまた、存在するのが現実です。自分と他者との違いを認めるためにはどうしたらよいのでしょう。

まずは「違いを知る」ことから始めてみよう

自分と他者はどこがどう違うのか、それを正しく知ることができれば「よくわからない」ことから生じる気持ちの悪さや違和感、怖さは軽減されるはずです。「違いを知る」ということは「自分を知る」ことにも繋がります。しかしここで他者と自分を比べないようにしましょう。なぜならあなたはあなただからです。人と違うことは、あなたを創る大切な要素です。人と違うところも大切に育てましょう。



正しい知識を持つ

LGBTQ+に肯定的なのだから、正しい知識がなくても構わない、というのは間違いです。まずは正しい知識を持ちましょう。そのためには、LGBTQ+に関する本を読んだり、盛岡市や、もりおか女性センター、岩手県男女共同参画センター、各団体などが開催している勉強会に参加するなどの方法もあります。

思考を止めない

よく考える過程こそが「自分と他者との違いを認める」ことにおいて大切なことではないでしょうか。考えることを止めてしまうと、自分が気付かないうちにあなたの周りにいる家族、友人、同僚などの大切な人を傷つけてしまうことになります。

いわてレインボーマーチ（IRM）とは

「岩手で多様な生き方を選択・実現可能にし、自分らしく生きる人を増やす」ことが目的の団体です。LGBTQ+だけではなく、様々な社会的マイノリティのエンパワメントを推進することで、目的達成を目指します。



IRMが考える「エンパワメント」とは

「人間はみな生まれながらにしてみずみずしい個性、感性、生命力、能力、美しさを持っている※」。いわてレインボーマーチでは、私たち一人ひとりの誰もが潜在的に持っているパワーや個性を発揮できるような社会を目指します。そのために、これまでの環境から受けた比較や暴力など、自己を否定する影響を取り除いていくため、社会に働きかけます。

※ 森田ゆり「エンパワメントと人権」

IRMが考える「社会的マイノリティ」とは

社会的マジョリティとの対等な地位や権利が確立されていない人々のこと。具体的な社会的マイノリティの例として、LGBTQ+、女性、子ども、若者、高齢者、日本にいる外国人、障害と生きる人、ひきこもり、ハラスメント・いじめ・DV・性暴力サバイバー、ひとり親家庭、貧困層などが挙げられます。

※マイノリティは社会的少数派を指す言葉で、マジョリティは反対に多数派を意味します。



プライドパレードとは

1969年6月28日。米国ニューヨークのゲイバー「ストーンウォール・イン」で、客と警察官が衝突し暴動に発展。翌1970年、この出来事から1周年を記念し、ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴでプライドパレードが同時開催されました。それから約50年後の現在は、LGBTQ+への差別や暴力に反対したり、自由で平等な社会を訴えたり、多様な性のあり方を祝うイベントとして、世界各地で開催されています。国や地域ごとに特色はありますが**「ありのままの自分にプライド（誇り）をもとう！」**というプライドパレードのメッセージは世界共通です。**いわてレインボーマーチ**では『MARCH THIS WAY』をスローガンに掲げパレードを2018年から開催しています。



撮影：秋山理央

みなさんは「LGBTQ＋」を知っていますか？



MARCH THIS WAY.

IWATE RAINBOW MARCH

いわてレインボーマーチ

×

盛岡市